

鶴見区将来ビジョン

【2018年度(平成30年度)～2022年度】



平成30年4月
大阪市鶴見区役所

～ 目 次 ～

◆ 鶴見区将来ビジョン策定にあたって……………	1
◆ 鶴見区の概要……………	2
・ 統計データ等	
・ 区民アンケート結果	
◆ 区の将来像(実現に向けた施策<4つの柱>)……………	8
1 つながる・支えあう……………	9
2 備える……………	12
3 育てる・まなぶ……………	15
4 聞く・伝える……………	19

鶴見区将来ビジョン【2018年度(平成30年度)～2022年度】策定にあたって

「鶴見区将来ビジョン」は、鶴見区のめざす将来像とその実現に向けた施策展開の方向性をとりまとめたもので、区民の皆さんと共にまちづくりを進める際の指針となるものです。

鶴見区役所では、平成25年度に概ね5年後の鶴見区のあるべき姿を見据えて「鶴見区将来ビジョン」を策定し、区の魅力創造をはじめ、地域コミュニティの活性化、安全安心なまちづくりなど、だれもが住んでよかったといえるまちの実現をめざし、さまざまな施策を展開してきました。

この新たな鶴見区将来ビジョン【2018年度(平成30年度)～2022年度】では、「つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、だれもが安心して暮らせるまち」をキャッチフレーズに、高齢者や現役世代、そしてこれからの社会を担うこどもたちが、地域や身近な人々と安心して暮らすことができるまちの実現をめざしていくこととします。その中でも特に、年少人口の割合が大阪市内で最も高いという特性を活かせるよう、4つの柱(P8参照)において、こどもを意識した取組みをすすめます。

(「鶴見区将来ビジョン」については、従来の「鶴見区将来ビジョン」から表記を変更しております。)

鶴見区の概要

鶴見区は、昭和49年(1974年)7月22日の行政区の再編により旧城東区から分区して誕生しました。

大阪市の最東端に位置し、城東、旭の両区、守口、門真、大東、東大阪の各市と接しています。区内には寝屋川が東西に流れ、古川が北から南に流れて寝屋川に合流しています。また、古くからの水路も残っており、いまなお農地も点在しています。

幹線道路として、大阪内環状線(新庄大和川線)、焼野中茶屋線、大阪中央環状線が南北に、花博通(都島茨田線)、鶴見通(東野田茨田線)、八間道路(片町徳庵線)が東西に通じ、鉄道は、区の中央を地下鉄長堀鶴見緑地線が、南部をJR学研都市線が東西に走っています。

都市公園として府下最大クラスの規模を誇る花博記念公園鶴見緑地には、プール、運動場、球技場、バーベキュー広場、乗馬苑、パークゴルフ場、咲くやこの花館、自然体験観察園などの施設があり、豊かな自然環境の中のスポーツ・憩いの場として市民をはじめ多くの人々に親しまれています。また、鶴見緑地の環境を背景に、環境分野における国際貢献の一環として誘致された市内唯一の国連機関「UNEP国際環境技術センター」も設置されています。区の西部は新旧の住宅地であり、中央部には工場跡地への住宅建設が進み、住・商混在地域となっています。寝屋川以南は、放出駅を中心に発展した古くからの住・商・工の混在区域です。

平成2年(1990年)に開催された国際花と緑の博覧会(花の万博)以降、地下鉄長堀鶴見緑地線の延伸、JR東西線の開通などで交通の便が飛躍的に向上したのをはじめ、公営・民営住宅の新築・建替、東野田茨田線の拡幅などの事業の進捗により住環境が充実し、人口が増加してきました。また、放出駅周辺地区の区画整理事業、区内大規模事業所の移転による跡地利用として大型ショッピングセンターの出店、JRおおさか東線の開業など地域環境が大きく変化してきています。

鶴見区



■ 現在人口・世帯数(平成30年3月1日 推計人口)

111,302人 47,058世帯

■ 区の面積

8.17km²(平成27年10月1日 国土地理院)

■ 区名の由来

鎌倉時代、源頼朝が富士の裾野で巻狩(四方から狩場を囲んで獣を捕らえる狩り)をしていた時に、千羽の鶴に金の短冊をつけて放したところ、この地に飛来して住み着いた。その鶴を見物にくる人が多く、「鶴見」という呼び名がついたという言い伝えがあります。(諸説あり)

■ 区の花

鶴見区にふさわしい花を募集し約8200通の応募の中から「ハナミズキ」(花の咲く木)と「チューリップ」(草花)が決定しました。

その後、ハナミズキの次に花が咲くツバキ(花の咲く木)が追加され、草花からは「ニチニチソウ」が追加選定されました。

区のマークは、季節ごとにめぐり咲く4つの花を鶴見緑地の風車にしてデザインしています。



ハナミズキ / チューリップ
ツバキ / ニチニチソウ

■ 区のมาสコットキャラクター

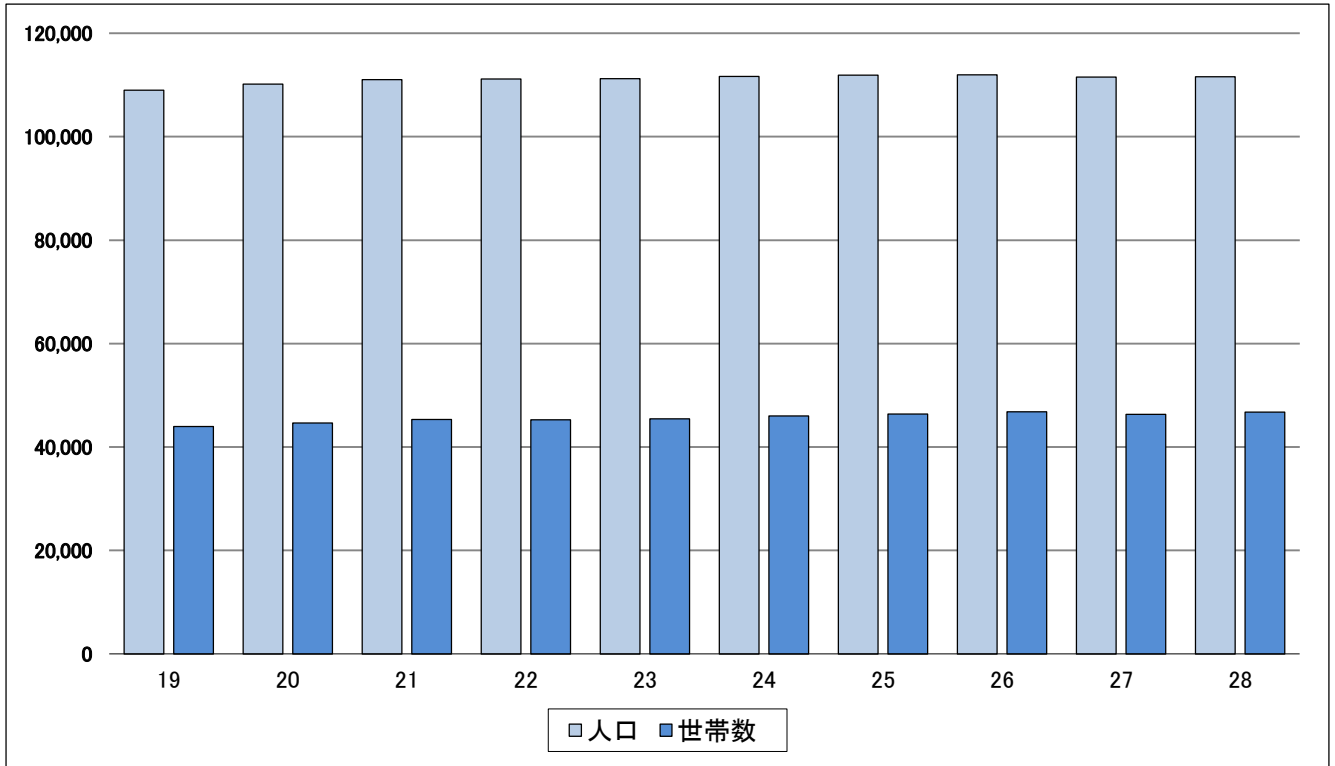
鶴見区มาสコットキャラクター「つるりっぷ」は、平成19年12月から平成20年1月にかけて、区民の方から応募のあった作品の中から、区民のみなさんによる投票により、平成20年3月に誕生しました。



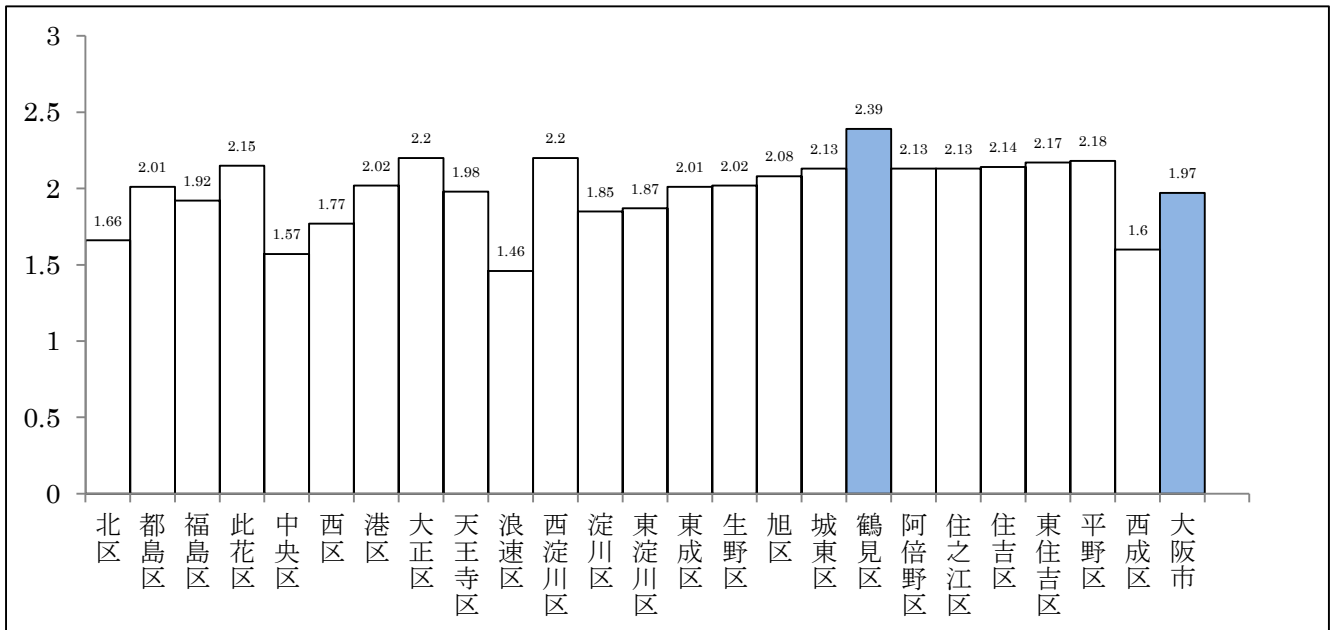
鶴見区の状況(統計データより)

鶴見区の人口(推計人口)は、平成20年度に11万人を超え、その後ほぼ横ばいに推移しています。また、年少人口(0歳~14歳)の割合は15.7%と大阪市内で1位であり、1世帯あたりの人員数についても2.39人と大阪市内で1位となっています。(平成27年国勢調査)

(人/世帯)



1世帯あたりの人員数(平成27年国勢調査)



年齢4階層別人口（国勢調査 総計は年齢「不詳」を含むため内訳の合計とは一致しない。）

	鶴見区		大阪市	
	平成22年 (階層比)	平成27年 (階層比)	平成22年 (階層比)	平成27年 (階層比)
0歳～14歳	18,308人 (16.6%)	17,298人 (15.7%)	308,093人 (11.7%)	295,298人 (11.2%)
15歳～64歳	70,672人 (63.9%)	69,038人 (62.5%)	1,734,432人 (65.7%)	1,682,798人 (63.6%)
65歳～74歳	12,326人 (11.2%)	12,597人 (11.4%)	327,842人 (12.4%)	350,805人 (13.3%)
75歳以上	9,213人 (8.4%)	11,485人 (10.4%)	270,993人 (10.3%)	317,893人 (12.0%)
総計	111,182人	111,557人	2,665,314人	2,691,185人

地域別人口割合(年齢不詳を除く) 単位:%

	0歳～14歳		15歳～64歳		65歳～74歳		75歳以上	
	22年	27年	22年	27年	22年	27年	22年	27年
鶴見北	15.7	15.7	65.0	66.8	10.0	11.0	9.3	8.5
鶴見	17.3	18.5	60.2	60.4	10.3	11.0	12.1	11.3
緑	16.4	19.1	62.5	63.2	10.5	12.3	10.2	8.8
榎本	12.8	13.6	61.6	63.7	12.9	10.8	13.5	12.3
今津	14.7	13.7	60.1	63.0	12.2	13.6	13.0	12.1
茨田南	15.8	14.4	60.8	63.0	10.8	12.9	12.6	12.6
茨田西	16.5	16.5	59.9	62.5	11.1	11.8	12.5	11.6
横堤	17.1	16.4	59.2	63.2	11.6	12.6	12.2	10.4
茨田東	12.6	12.2	51.7	53.8	14.4	19.0	21.3	21.4
茨田北	18.3	18.0	61.4	64.4	9.9	10.1	10.5	9.3
茨田	14.5	13.0	59.2	62.3	12.6	14.9	13.7	13.6
烧野	18.5	20.2	59.2	60.4	9.8	10.6	12.5	10.9

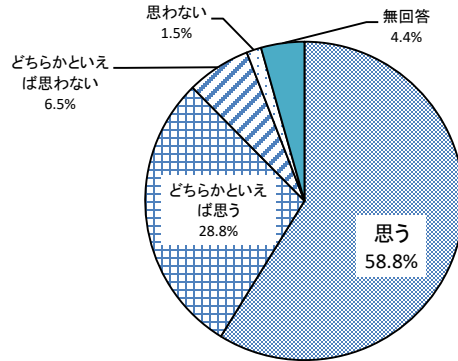
年少人口は全地域において大阪市人口を上回っているが、年齢構成割合は地域により違いがある。

鶴見区の状況(区民アンケートより)

(平成28年度実施)

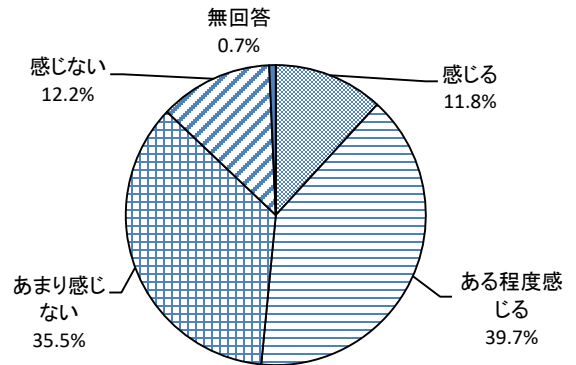
鶴見区に住み続けたいと思いますか。

87.6%の人が肯定的な回答をしています。中でも、中学生の子育てをされている方の肯定的な回答は98.1%と非常に高くなっています。



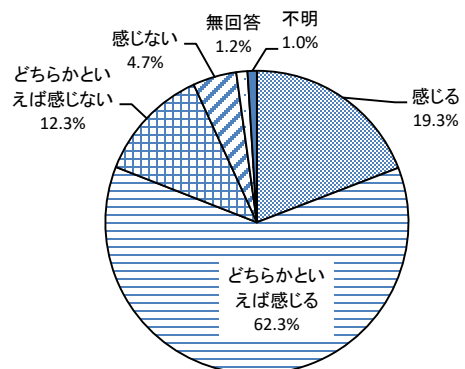
あなたのお住まいの地域で、日頃から、ご近所どうして「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」が行われていると感じますか。

51.5%の人が肯定的な回答をしています。80歳以上では67.4%の人が「感じる」「ある程度感じる」と回答しており、20歳～29歳では57.6%の人が「あまり感じない」「感じない」と回答しています。



鶴見区を安全で住みやすいまちと感じますか。

81.6%の人が肯定的な回答をしています。「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した比率が最も高いのは80歳以上の89.1%となっています。



区の将来像(実現に向けた施策<4つの柱>)

つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、
だれもが安心して暮らせるまち

こどもから高齢者まで、鶴見区で暮らすすべての人が、地域や身近な人々と安心して暮らすことができるまちの実現にむけ、次の4つを柱として施策を推進します。

